

受入大学名	奈良女子大学		
Host University	Nara Women's University		
外国人研究者	劉 丹		
Foreign Researcher	LIU DAN		
受入研究者	中山 徹	職名	教授
Research Advisor	Toru NAKAYAMA	Position	professor
受入学部/研究科	生活環境学部		
Faculty/Department	Faculty of Human Life and Environment		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	China
所属機関	中国鉱業大学(北京)
Affiliation	China University of Mining and Technology-Beijing
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2020年12月17日～2021年3月16日(90日間)
Period of Stay	90days ( Dec17,2020 - Mar16, 2021)
専攻分野	社会学
Major Field	Social Sciences



役場訪問/An official visit to local government

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<b>①研究課題 / Theme of Research</b>
中国における地域包括ケアシステムの導入及び課題に関する研究
<b>②研究概要 / Outline of Research</b>
中国は今後早いスピードで高齢化が進展することが予想される中、日本のように全国に広く行き届いた介護保険制度が整備されていないため、地域内での多様なケア、リハビリテーション、医療、保健、福祉、その他生活支援するための諸資源の統合ができていない。本研究は奈良女子大学と武漢での共同研究の一環であり、以下二つ目標のうち、目標Ⅰを達成することが目的である。 目標Ⅰ 社会福祉の観点で地域包括ケアシステムにおける行政の役割分担や担い手の連携、住民参加などの取り組み実態を把握する。 目標Ⅱ 地域包括ケアシステム構築にあたり、日本の経験が中国の高齢社会対策の参考に可能性を検討する。
<b>③研究成果 / Results of Research</b>
目標Ⅰを達成するには、地域包括ケアシステム構築プロセスに関する枠組を整理する上に、奈良県にある2市3町1村の役場にヒヤリング調査を実施し、以下の成果が上げられる。 ①奈良県域における地域包括ケアシステム構築にあたり取り組みの全体像を一定程度把握した。 ②各々人口規模と高齢者率の市町村の地域包括ケアシステムの取り組み実態を明らかにした。 ③各市町村の地域包括ケアシステム構築にあたり各々問題点と今後の課題を検討した。
<b>④今後の計画 / Further Research Plan</b>
今後、目標Ⅱをめぐって研究する予定である。 中国における「社区養老」の進展状況を対照に、地域包括ケアシステムの導入可能性と課題、主に専門的な人材養成や地域でのケア体制(医療介護連携等)の構築等を研究する予定である。

< 受入研究者からの報告/Research Advisor Report >

①研究課題 / Theme of Research

中国における地域包括ケアシステムの導入及び課題に関する研究

②研究指導概要 / Outline of Research

奈良県内自治体の地域包括ケアの実態調査及び文献収集を行った。具体的には以下のように進めた。

①中山と劉丹氏で打ち合わせを行い、訪問自治体及び質問項目を決定した。訪問したのは、市街地部の比較的規模の大きい自治体：奈良市、市街地部の中規模の自治体：生駒市、市街地部の小規模自治体：上牧町、都市近郊農村：広陵町、中山間地域の小規模自治体：吉野町、山村の自治体：東吉野村

②中山が以上6自治体の担当課に連絡を取り、ヒヤリング調査の依頼を行った。そして、劉丹氏が6自治体の担当課を訪問し実際の調査を行った。

③ヒヤリング調査後、調査内容について、中山と劉丹氏で討議した。

③研究指導成果 / Results of Research

①奈良県内の自治体が進めている地域包括ケアシステムの概要が把握できた。

②地理的特徴、人口規模、高齢化率の異なる自治体で、それらの特徴と地域包括ケアの関係性が一定、把握できた。

③各市町村の地域包括ケアシステムの進め方、各種団体間の連携などを、把握することができた。

④各市町村が地域包括ケアを今後どのように進めようとしているのか、何を課題として考えているかを把握することができた。

④留学生交流事業の活動状況 / Activities of International Student Exchange Program

当初予定していた交流事業は新型コロナウイルス感染症との関係で実施が困難であった。劉丹氏が滞在していたのは奈良県であるが、大阪、京都に緊急事態宣言が出たため、県外への移動が難しくなった。そのため学会など、学外団体との交流はできなかった。緊急事態宣言が解除された3月に、奈良女子大学中山研究室に所属している博士後期課程の留学生と交流した。交流の内容は以下の三つである。

一つ目は、劉丹氏の研究内容について劉丹氏が講義を行い、大学院生と質疑応答を行った。

二つ目は、劉丹氏が博士論文をどのようにまとめたのか、中国の大学でどのような仕事をしているかを説明し、質疑応答を行った。三つ目は、重要伝統的建造物群保存地区を視察し、町並みの保存と市民生活のあり方について意見交換を行った。

⑤今後の計画 / Further Research Plan

劉丹氏とは定期的に連絡を取り合っているが、今後は以下のように進めようと考えている。

①日本の地域包括ケアについて引き続き劉丹氏が調査できるような環境を整える。

②中山が中国鉱業大学（北京）を訪問し、日本の地域包括ケアについて講義し、中国鉱業大学（北京）で社会福祉を研究している教員、大学院生などと交流する。

③それらを通じて、奈良女子大学と中国鉱業大学（北京）の共同研究、学生間交流につなげる。

④両大学間の交流が持続できそうであれば、国際交流協定の締結について議論する。



伝統街並み視察/A visit to traditional district



交流会/Group Discussion